づくりを進めるとともに、新規就農者の導入促進と受入支援体制の整備などを進めていくこととしています。「健康長寿」では、保健・医療・福祉分野の統合と連携による新しいシステムに向けて、住民総合窓口の創設などのサービス提供システムの構築などを進めていくこととしています。また、「スポーツ」では広域での総合型地域スポーツクラブの展開などを支援していくとともに、「生活環境」では、環境美化に向けての官民共同での活動体制づくりや、地域防災活動体制の支援などを進めているところです。

●その他の質問事項
・県内の治水(利水)の現状と対応　他

地域と密接な連携を

第二名神高速道路(四日市～亀山間)の整備促進

館　直人 議員
無所属・MIE(三重都選出)

問　第二名神高速道路の四日市～亀山間の整備については、道路公団の民営化が進められている中、いまだその整備方針が示されず、特に菰野～亀山間の施行命令が出ていないという状況です。そのため、地元では大きな危機感をつのらせています。単に高速道路が欲しいというのではなく、四日市市を中心とした深刻な渋滞対策や、企業誘致等の地域活性化という面からも必要不可欠な道路なのです。地元でも整備促進に向け、北勢地域の経済団体が中心となって「第二名神促進北伊勢経済団体会議」が設立されました。また、菰野町と四日市市を中心に民間組織を立ち上げ、取り組もうとする動きも始まっています。

そこで、県もこうした地域の動きと連携し、実現に向け積極的に取り組むべきと考えますが、その決意をお聞きします。

第二名神高速道路　湾岸長島I.C付近

答　県では、今まで以上に、県民の切実な思いを国等の関係者に効果的に伝える工夫をしていくことが必要であると強く感じています。こうした中、新しく民間有志の会や経済団体による組織が設立されたことは、県としても非常に力強いものと感謝しています。今後は、これらの団体の活動を踏まえて、幅広く皆様に理解をいただくよう努めるとともに、県民の皆様と一緒になって、国等の関係者に理解が得られるまで、ねばり強く訴えていきます。

●その他の質問事項
・農業振興策　他

ユニバーサルデザイン先進県・三重のゆくえ

誰にでも優しい三重県政をめざして

末松　則子 議員
自由民主党・無所属議員団(鈴鹿市選出)

問　最近、ユニバーサルデザインという言葉が理解されつつあります。これは、まちづくりやものづくりなどを進めるにあたり、年齢、性別、身体、国籍など、人々が持つ様々な特性や違いを越えて、はじめから全ての人が利用しやすい、全ての人に配慮したデザインをしていこうとする考え方です。県は早い段階からこれを実行するためのチームを設置し、全庁的に事業を実施してきました。先進県であると評価できるとともに、バリアフリーの考え方から一歩先んじて取組を進めてきたと言えます。しかし、平成十六年度の組織改正でこのチームが廃止される予定です。ユニバーサルデザインは国際化・情報化時代を創造していくための本質的な考え方だと思いますが、知事の所見をお聞きします。

ユニバーサルデザインに基づく三重北勢健康増進センター

答　県では、平成十一年に「バリアフリーまちづくり推進条例」を制定するとともに、推進本部を設置して全庁的にバリアフリーのまちづくりに取り組んできましたが、これをさらに一歩進めた、誰もが自由に社会参加できるユニバーサルデザインのまちづくりを進めることが重要であると認識しています。こうしたまちづくりを進めるには、行政だけではなく、県民一人ひとり、NPO、地域の団体など多様な担い手の皆さんとともに、役割分担をし、協働で展開していく必要があり、それが、今後、県政がめざしていくユニバーサルデザインのまちづくりであると考えています。

●その他の質問事項
・海岸環境の保全と整備　他

財政の適正な収支を

そんなに悪いか?三重県財政

竹上　真人 議員
自由民主党・無所属議員団(松阪市・飯南郡選出)

問　知事からよく「県財政の危機的状況」という言葉を耳にしますが、様々な指標を全国で比較しても財政状況は非常に優秀だと言えます。その上、県の黒字額は他県に比べて大変大きくなっています。一方で、ここ二、三年行政サービスに直結する経費を削減してきた結果、三重県の財政規模は他県に比べて非常に小さくなっています。しかし、例えば平成十六年度予算で、借金に係る収支を除いた基礎的収支で見ると、百二十億円ほどの収入超過となっており、毎年の借金返済額を減らすなどすれば、少なくともあと百億円ほど支出を増やすことも可能です。

そういう意味で、私は県財政について、厳しくはあるが決して危機的状況とは考えていません。何をもって危機と言うのか、具体的な説明をお聞きします。

答　財政の弾力性を表す「経常収支比率」は、近年では望ましいとされる八十%を超え、財政の硬直度を表す「公債費負担比率」も危険ラインとされる二十%を超えている状況で、現在の財政運営や起債発行規模を続けていけば、将来危機的な状況に陥ってしまいます。日本経済について復活の兆候が見えてきたことは非常に喜ばしいことですが、行政の面からは財政状況を一気に好転させるような状況にはありません。また、義務的経費が高い水準で推移しているとともに、国の三位一体の改革もこれからが正念場であることを考慮すれば、県の財政について甘い考え方を持つことは全くできないと考えています。

●その他の質問事項
・がんばれ!木材

揖斐川の治水安全度の向上を

ダム関連事業

西塚　宗郎 議員
新政みえ(桑名市選出)

問　揖斐川の治水は、揖斐川流域の住民はもとより、桑名市や多度町の住民にとってもたいへん重要な課題です。現在、その上流の岐阜県内で、洪水調節や利水